日语阅读精选

周国明 李娜 译著

日汉对照系列读物 2

天津大学出版社
TIANJIN UNIVERSITY PRESS

日汉对照系列读物

日语阅读精选②

周国明　李娜　编

天津大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语阅读精选.2/周国明编.—天津:天津大学出版社,2003.8
(日汉对照系列读物)
ISBN 7-5618-1754-1

Ⅰ.日… Ⅱ.周… Ⅲ.日语-阅读教学-自学参考资料 Ⅳ.H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 052748 号

出版发行 天津大学出版社
出 版 人 杨风和
地　　址 天津市卫津路 92 号天津大学内(邮编:300072)
网　　址 www.tjup.com
电　　话 营销部:022-27403647 邮购部:022-27402742
印　　刷 河北省昌黎县人民胶印厂
经　　销 全国各地新华书店
开　　本 110mm×185mm
印　　张 11
字　　数 246 千
版　　次 2003 年 8 月第 1 版
印　　次 2003 年 8 月第 1 次
印　　数 1-4 000
定　　价 75.00 元(全五册)

序

要想提高日语阅读能力，最好的办法是多读文章、快读文章、读不同体裁的文章。

这一套《日汉对照阅读丛书》就是针对日语学习者提高阅读能力而编写的教材。

本丛书主要供学习日语的读者作自学用书，但是也可以作为课堂教学的教材。

本丛书挑选了政治、经济、历史、文化、地理、气候、风土人情、名胜古迹、日本童话、外国故事、中国故事、神话故事、寓言及日语语言、科普方面的文章。题材广泛，篇目很多。

阅读本丛书既能大大提高日语阅读能力和兴趣，还能获取大量的知识和信息。

为了方便读者，我们将文章译成中文，列出词汇表，每一个生词标有词性及词义。

对语法现象采取汉语释义的方法，以求读者记得住。

由于经验不足，水平有限，丛书中难免有错误和疏漏之处，敬请同行专家、学者及广大读者不吝赐教。

编者

2003.1

目　录

1.クロ物語 …… (1)
词汇 …… (12)
语法,词语说明 …… (15)
译文:小黑的故事 …… (17)
2.人間の愛金メダル …… (24)
词汇 …… (31)
语法,词语说明 …… (34)
译文:人间爱的金牌 …… (37)
3.セメント樽(だる)の中の手紙 …… (42)
词汇 …… (47)
语法,词语说明 …… (50)
译文:水泥桶里的信 …… (52)
4.国語を愛する …… (56)
词汇 …… (59)
语法,词语说明 …… (61)
译文:热爱国语 …… (63)
5.町を救った犬 …… (66)
词汇 …… (71)
语法,词语说明 …… (73)
译文:拯救了村庄的狗 …… (75)

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongb

6.宮沢賢治(みやざわけんじ) …… (78)
词汇 …… (84)
语法,词语说明 …… (86)
译文:宫泽贤治 …… (87)
7.『孔乙己(コンイーチ)』を読んで …… (92)
词汇 …… (95)
语法,词语说明 …… (96)
译文:读孔乙己 …… (99)
8.春は夜汽車の窓から …… (101)
词汇 …… (108)
语法,词语说明 …… (112)
译文:春天从夜行列车的窗户吹进来 …… (115)
9.数字に見る教師不信 …… (120)
词汇 …… (124)
语法,词语说明 …… (125)
译文:从数字看对教师不信任 …… (127)
10.五年前を「大昔」とする時代…… (131)
词汇 …… (134)
语法,词语说明 …… (136)
译文:把五年前当作"很久以前"的时代 …… (138)
11.造船所の一隅(いちぐう)で …… (141)
词汇 …… (146)
语法,词语说明 …… (149)
译文:造船所一角 …… (151)

12.なまいき……（155）
词汇 ……（160）
语法，词语说明 ……（163）
译文：傲气 ……（165）
13.世界最古「長江文明」発掘記……（170）
词汇 ……（196）
语法，词语说明 ……（199）
译文：世界上最古老的“长江文明”发掘记 ……（201）
14.情報時代と情報公害……（221）
词汇 ……（227）
语法，词语说明 ……（229）
译文：信息时代与信息公害 ……（230）
15.見ることについて……（235）
词汇 ……（240）
语法，词语说明 ……（242）
译文：关于看 ……（244）
16.言語とは何か……（248）
词汇 ……（257）
语法，词语说明 ……（260）
译文：语言是什么 ……（263）
17.親友とライバル……（270）
词汇 ……（279）
语法，词语说明 ……（284）
译文：好友和竞争对手 ……（286）
18.日本語の自称詞

——对人関係における自己規定……（293）
词汇 ……（298）
语法，词语说明 ……（300）
译文：日语的第一人称
——在对人关系中的自我定位 ……（302）
19.陰翳礼讃（いんえいらいさん）……（306）
词汇 ……（312）
语法，词语说明 ……（316）
译文：阴影礼赞 ……（318）
20.助け合いの論理……（323）
词汇 ……（331）
语法，词语说明 ……（334）
译文：互相帮助的伦理 ……（336）

1 クロ物語

1

長野県の山の中の、小さな駅でした。

汽車が動きだしました。

「では、さようなら。」

わたしは、まどからおじぎをしました。

汽車は、しだいに速力を増して、見送りの人の顔が、みるみるうちに小さしくなっていきます。

そのときです。ワン、ワン、ワン、ワンという声が聞こえてきました。

クロです。

汽車の後を追って、まっしぐらにかけてきます。が、ぐんぐんとり残されて、たちまち、二、三百メートルもおくれてしまいました。それでも、かけてきます。やがて、ぽつんと黒い点になり、見えなくなってしまいました。

わたしは、汽車のまどから首を出して、いつまでも線路の上を見つめていました。

クロの鳴き声が、耳の底に残ってはなれません。

クロは、まだポケットの中に入る子犬のころから、わたしが1年間かった犬です。

クロは、その名のとおり、真っ黒い犬でした、秋田犬の血統だということで、耳は、ぴんとするどく立ち、おは、くるんとまき上がっていました。

わたしは、クマがりに使うつもりで、近くに住む、かりゅうどの安(やす)じいさんにしこんでもらっていたのです。そのうちに、わたしは、仕事のつごうで、長野県から千何百キロもはなれた鹿児島(かごしま)県のほうに移らなければならなくなりました。

「ね、だんな、九州なんてクマのいない国に、この犬を連れていってしまうのは、おしいにな。わたしに預けていきなせいよ。クロは、すばらしいクマ犬になりますがなむし。」

と、しきりに安じいさんがすすめるので、

「じゃあ、また、冬の休みにでも帰ってきて、クマがりをすることもあろうから……。」

と、わたしは、安じいさんのところにクロを残しておくことにしたのです。

いよいよ出発のとき、安じいさんも、クロを連れて、見送りに来てくれました。

ところが、わたしは、人々へのあいさつや、出発のごたごたにまぎれて、つい、クロのことなどわすれていたのでした。

そうしたおり、あとをしたって、汽車をどこまでも追っかけてくるあのすがたを見せつけられて、わたしは、すっかりむねを打たれてしまいました。

わたしは、クロに、すまないことをしてしまったような気がしてたまりませんでした。

2

鹿児島県に着いて20日ばかりすると、安じいさんから、手紙が来ました。

それは、となりの家の4才になる子どもが、かぜをひいて3日ねたということから始まり、うらの畑にナスのなえをいく本植えたということ、四、五日前の大雨で、どこの池のコイが、どのくらいにげたということまで、村の20日間のことを、まことにくわしく書いている手紙でした。わたしは、元気な安じいさんのすがたを思いうかべながら、楽しく読んでいきました。

ところが、終わりになって、わたしの心は、急に暗くなってしまいました。

「クロは、おまえ様が出発してから、毎日、午後の4時から8時ごろまで、あの駅のさくの所に立って、待っておりますのな。犬ながら、感心なやつでありまする。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

おまえ様と同じように、わたしにもなつくかどうかと、心配しているのでありますがなむし。」

雨に打たれて、しっぽをだらりとたれ、帰らぬ主人をいつまでも待っているクロ。暗い夜道をとことことかけて、新しい主人のところにさびしく帰っていくクロ。——そのすがたが、目の前にはっきりうかんできました。

——そんなふうなら、こっちに連れてくればよかった。
と、わたしはこうかいしました。

よく日、わたしは、町に出てブタの塩づけを買うと、「これをクロにやってくれ。」という手紙をつけて、安じいさんのところに送りました。

それから後も、ときどき、犬のすきそうなものをとどけましたが、クロのさびしそうなようすを聞くのは、なんとなく心がとがめられるような気がするので、できるだけ、手紙には、犬のことを書かないようにしておりました。

そのよく年の冬のことでした。

安じいさんから、例の地方ことばの交じった手紙がとどきました。その手紙には、クロのことが、こんなふうに書いてありました。

「クロは、すっかり、わたしになつきましたにな。この

間、キジがりに行きましたので、クロはじゃまだと思い、なわでつないでおきましたのな。ところが、5里ばかり先のとうげの茶屋で、昼飯を食べておりますとなむし、クロめは、なわをかみ切ったとみえまして、首になわの切れっぱしをぶらさげて、息をせかせかやってなむし、えらい勢いでかけつけてきましたのな。そして、わたしを見つけると、とびついて、手をなめる、かたをなめる、顔をなめるで、大喜びでありました。クロも、もう、わたしを主人と思いこんで、心からなつきましたによって、ご心配は無用でござりまする。」

クロが新しい主人に心からなついたというこの便りに、わたしはほっとしました。が、いっぽうでは、やっぱりちくしょうだなあ、というような、さびしい気持ちを感じたのでありました。

その後、いつとはなしに、クロのことはわたしの心から消えていき、安じいさんからの手紙にも、クロのことは、だんだんなっていきました。

3

クロと別れて、早くも5年の月日かたちました。

安じいさんから、「今年は、めずらしくクマがさわぎます。この冬は、帰省されてはどうですか。」という意味の手紙が来ました。

5年も故郷(きょう)に帰ってみないし、用事も少しあるので、

冬休みを利用して帰ることに決めました。

久しぶりに、故郷の土をふみ、なつかしい思いで改さつロを出ました。すると、六、七才の子どもをはわしたような大きな犬が、いきなりとびついてきました。

クロです。

なんとまあ、大きくなったことでしょう。

5年間も、わたしをわすれずにいてくれたのです。

「こらこら、だんな様の洋服がよごれてしもうぞ。」むかえにきてくれた安じいさんが、大声でしかりつけました。

クロは、きまり悪そうにおをたれて、安じいさんの後ろに行って、小さくなってしまいました。それは、いかにも、安じいさんをほんとの主人と思いこんでいるかのようでした。

わたしの家は、学校の先生に貸してあるので、安じいさんの家にとまることにしました。

よく日、安じいさんは、わたしにごちそうするんだと言って、クロを連れて、うら山へキジがりに行きました。出かけるとき、わたしは、ちょうどえん側に出ておりましたので、

「おい、クロ。」

とよびとめました。クロは、ウウウ、と、あまえた声で

わたしに近づき、二、三度、わたしの手のひらをなめましたが、じいさんが口ぶえをふくと、おをふりふり、わたしを置き去りにして、じいさんの後についていってしまいました。

わたしが初めの主人であるのに、クロは、わたしのほうを第二にしている。わたしは、なんとなくもの足りなく思いました。

しかし、また、わたしが世話したのは一年だけで、後の5年間は安じいさんが世話をしたのですから、やむをえないこととも思いました。

4

ここに着いてから5日めに、いよいよクマがりをしました。

8キロほどおくにクマが出たというので、わたしたちは出かけました。

行ってみると、雪の上に大きな足あとがありました。クヌギがねじ切られています。クマが、じゃまになる木をたたき折って通ったとみえます。

クロを放してやりました。

クロは、足あとをかぎ、それから、鼻を空に向けてひくひくさせていたかと思うと、いきなりかけだしました。

わたしは、見晴らしのきくおねの岩の上に立ちました。

安じいさんは、わたしと反対側のおねにじんどりました。わたしと安じいさんとのきょりは、三百メートルばかりありました。

こうして、クロが、この谷間へクマを追いこんでくるのを等っていました。

昼近くなっても、クロは、すがたを見せませんでした。わたしは、雪の上にすわって、冷たいにぎり飯を食べ始めました。

すると、ワン、ワン、ワン、ワン、と、クロのはげしい鳴き声がしました。

飯どころではありません。わたしは、じゅうを取って立ち上がりました。

バリ、バリ、バリ

えらい音です。

真っ黒いやつが、わたしから十二、三メートル先に現れ、谷に向かってかけ下りていきます。

意外なところから急にとび出されて、わたしはあわててしまいました。

カーン

クマの後ろから、一発、ぶっ放してやりました。

かすりきず一つ負わすことができなかったとみえます。

クマは、谷を横切ってどんどんにげていきます。

カーン

安じいさんのつつロから、うす青いけむりが、もこっととび出しました。

「おうい。」

わたしはさけびました。

「ワッハッハッハッ……。」

安じいさんの大きなわらい声が、流れてきました。

クマは、急所をやられたとみえて、もんどりうって谷底へ転げ落ちました。

5

安じいさんは、た、た、た、と、おねから谷間にかけ下りていきました。わたしは、こちらからゆっくりと下り始めました。

「あっ。」

思わず、わたしはさけびました。

安じいさんが、クマのそばにかけ寄ったとき、死んだとばかり思っていたクマが、むくんと起き上がって、じいさんに組みついたのです。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb